

# 富岡製糸場と深谷人

【第8回】

## 漆喰に全力を尽くす

堀田 鷲五郎・千代吉親子

国内で初期の洋風建築である富岡製糸場の建設には、お雇い外国人の設計者もいましたが、実際に建設に当たったのは、江戸時代に培われた建築技術を受け継ぐ棟梁や職人でした。

そして、それらの職人たちの中には、煉瓦を接着するために必要な漆喰作りに尽力した、堀田鷲五郎・千代吉親子がいました。

堀田家現当主の堀田英也氏によると、鷲五郎は文化十四年（一八一七）八月三日に生まれ、また、子の千代吉は、嘉永元年（一八四八）十月九日に兎玉郡山王堂村（現在の本庄市）の石川六太郎の次男として生まれ、後に鷲五郎の養子になりました。そして堀田親子は、下手計にある尾高惇忠の自宅近くで、左官職を営んでいました。

富岡製糸場の建設では、屋根瓦、室内天井、壁、煉瓦積みにも大量の

接着剤が必要となりました。この当時、海外では煉瓦積みの接着剤は通常セメントが使用されていましたが、まだ日本ではセメントが製造できませんでした。そのため、当時国産石灰の約八、九倍もの高価格である海外のセメントを輸入するか、国産の代替材料を工夫する必要がありました。

そこで、尾高惇忠は同郷の堀田親子に事情を説明し、セメントに近い強度の接着剤の製造を懇願しました。

堀田親子は、尾高惇忠の頼みを承し、日本でも古くから使用されていた漆喰を改良した接着剤を作ることができたか考えました。そして、群馬県青倉村（現在の下仁田町）の石灰を主な材料としてセメントに類似した漆喰を作り、これによって煉瓦をつなぎ合わせるという名人芸によって、無事問題を解決しました。



▲『和洋混交』の技術で作られた漆喰は、今も富岡製糸場の建物の煉瓦をしっかりとつなぎ合わせ、支えています。（画像提供：富岡市・富岡製糸場）

この点からも、堀田鷲五郎・千代吉親子のような建設工事に関係した当時の棟梁や職人の技量が高かったことがうかがえます。こうして建設された富岡製糸場は、江戸時代から続く日本の伝統的な技術を基礎に、西洋の技術をつまみ取り入れて完成した『和洋混交』の建物といえます。

（文：荻野勝正）

### 練り上げて 作ったれんがと 漆喰で

れんがは、甘楽町の粘土を使い深谷の瓦職人らにポール・ブリュナらが指導して造った。漆喰はれんがの接着剤として下仁田町産の石灰と海藻（フノリ）等で練り上げて使った。フランスから少量のセメントは輸入したが接着剤には使わなかった。（『富岡製糸場「絵手紙かるた」』NPO法人富岡製糸場を愛する会 より）



※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。また、年齢については、当時の通例に従い数え年の表記とします。

# 市長の深い話

深谷市長 小島 進

## 日頃から備えを



9月16日午後0時28分、茨城県南部を震源とした地震が発生し、市内の一部で震度5弱の大きな揺れを観測しました。この地震で民家の石塀の倒壊や屋根瓦の崩落などはありましたが、幸いなことに人的被害は特に生じることなくホッとしました。その一方で、改めて地震をはじめとする自然災害の怖さを思い知らされました。

東日本大震災から3年半が経過し、被災地の復興が進んでいます。友好都市の岩手県田野畑村からは、4月の三陸鉄道北リアス線開通や7月の断崖クルーズ観光船の運行再開といった明るいニュース

がもたらされています。一日も早い完全復興を願っています。

今年も、広島の大雨、御嶽山の噴火、その他にも全国各地でのゲリラ豪雨や竜巻など、多くの自然災害が発生しています。深谷は比較的災害の少ない地域だといわれていますが、2月には大雪に見舞われ、甚大な損害を被りました。

市ではこれまで、小・中学校の校舎などの耐震化や災害時に有効な施設となる給食場の整備、地域防災計画の見直し、ハザードマップの更新など、災害対策としてさまざまな取り組みを行っています。そして、災害発生時にその対策の拠点となる市役所の新庁舎を新たに建設することは、広報ふかや8月号でお知らせしたとおりです。

災害時には、『自助』『共助』『公助』のいずれも大切で、その中でも自分の命は自分で守るという『自助』が、被害を防ぐため、そして、被害を少なくするうえで最も基本となるといわれています。災害はいつ発生するかわかりません。市としても全力で災害対策に取り組んでいきますので、皆さんもいざという時のために日頃から災害に備えておきましょう。

### ありがとうの手紙



優秀賞

小学校高学年の部  
救急隊員のみなさんへ

本郷小学校4年（現5年） 森海翔 さん

救急隊員さん、いつもありがとうございます。ぼくが、具合が悪くなった時、不安でいっぱいだったけど、すぐにかけてくれたので、とてもほっとしました。病院に着くまで、「大じょうぶだよ。もうちょっとだよ。」等、ずっとはげましてくれました。

この時、救急隊員さんが、かっこいいなとあこがれました。ぼくも将来、人を助ける仕事につきたいなと思いました。これからも、たくさんの命を救ってください。

### みんなの声BOX

Q 市は『ふっかちゃん』のPRにチラシを入れていますが、何かの役に立っているのですか？

A 『ふっかちゃん』を全国にPRすることで、市の知名度向上や経済効果も生まれるほか、市民の一体感の醸成につながります。また、障害のある子どもたちのため活用される『ふっかちゃん子ども福祉基金』でも、ふっかちゃんが役立っています。

『ふっかちゃん子ども福祉基金』では、これまでに軽度・中等度難聴児の補聴器購入の助成などを行っています。

問い合わせ 協働推進課（☎574 - 6658）、こども青少年課（☎574 - 6646）